

新聞雜誌

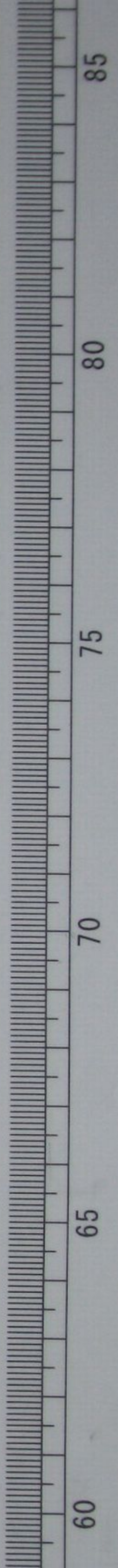
明治辛未五月

第二號

定價二匁



西垣文庫 時  
文庫 10  
7304  
2



特  
又庫10  
7304  
2

緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ  
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑怖ムル多ク竟ニ我ヲ  
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ  
大政ノサマヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテ八達カタキ世ニ生レシカヒ  
ナシ今 官許ヲ受テ新聞松局ヲ開キ 大政ヲ始テ諸府藩縣ノ變革  
又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞ニ見聞ニ隨ヒ刊行スルハ我 日本國中  
ノ人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻ナル事ヲ棄ントテナリ頑ハ此冊子  
ヲ讀ムフ人々ヲ聞テニテ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚可ク  
喜可キ事多ク唯一隅ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レス夏虫氷ヲ疑フ笑有リト知  
テサテラフ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ヘケレ

西館文庫



新聞雜誌第二號

明治四年辛未

○歐羅巴ニ於テ新發明ノ砲隊世ニ行レシヨリ騎兵ハ  
無用ノ廢物トスルノ說各國盛ナリシガ普魯士ニテハ  
今一度實驗ヲナシ取捨スベシトノ國論ニテ此度佛蘭  
西トノ戦争ニ騎兵ヲ用ヒ其効實ニ著シキヨシ是ニ於  
テ各國ノ兵法又一面目ヲ改ムベシト云ヘリ  
○山口藩ノ脱人大樂源太郎久留米藩ニ潜伏セシニ四  
條巡察使豊後日田ニ出張米藩御詰問有之シニ米人藩  
ニ源太郎ヲ逃シ路ニテ之ヲ暗殺シ其屍ヲ隠セシニ其

新聞雜誌第二

事發覺セシヨシ當時米藩ノ件御所置最中ナリト

○陸中國磐井郡中川村百姓彌太夫ト云者過ル亥ノ年同村百姓長太夫ト田地ノ争ヒヨリカ田中ニテ長太夫ヲ殺害シ直ニ立去リ行衛知レガリシガ長太夫ノ二子兄幸治年十八歳弟幸七十四歳俱ニ父ノ非命ヲ歎キ復讐ノ志ヲ起シハケ年ノ間千辛萬苦諸所ヲ尋子漸ク當三月廿八日江刺郡人首村ニテ離彌太夫ニ出逢ヘリ彌太夫モ適レガタクヤ思ヒケンサラバ以前爾ガ父ヲ殺害セシ處ニテ快ク立合ントテ連立行シカ幸七離ノ無刀ナルヲ見テ已ガ帯ビシ小刀ヲ與ヘ之ヲ以テ戰ヘト

云ヒシニ離モ不敵者ニテ短キモノハ用ニ立ズトテ畑ニ立シ棒杭ヲ拔キ取り幸治ト立向ヒ暫ク勝負モ見エザリシガ幸七透ヲ子ラヒ一太刀打込遂ニ兩人ニテ切フセ多年ノ本望ヲ達セリト云嗚呼孝子ノ苦節實ニ世ヲ勵マズ可シ而メ人ヲ殺スノ賊官ノ網羅ヲ脱シ九年ノ餘命ヲ保チシハ何ゾヤ  
○西洋ニテハ器械ヲ以テ鷄鶩ノ卵ヲ生育ス是ハ親鳥ノ勞ヲ省キ人造ヲ以テ温素ヲ助クル至便ノ方ナリ當時東京ニテハ之ヲ行フモノアリ世人試テ其効驗ヲ知ルベシ

○米利堅人「ドン」先頃東京ニ在留セシガ處々ニテ人ノ  
 鶏ヲ畜フヲ見テ大ニ笑ヒタリ其説ヲ聞クニ凡ベテ畜  
 類ハ其天品ノ生イ立チ自ラ大小ノ別アリ鶏ニテモ「シ  
 ヤモ」ナドノ如キ類ヲ按テ肥大ナルモアリ又「チヤボ」ナ  
 ドニ至テハ其形軀僅ニ「シヤモ」ノ三分一ナルアタハズ  
 其卵モ從テ至小ナリ然レモ其畜方ノ手數及食料等ハ  
 別段「シヤモ」ニ違ハザレバ畜養ノ間其類ノ大小ニ付テ  
 ハ大ナル損得アリ故ニ「チヤボ」ナドノ如キ小鶏ハ漸々  
 食料ニシテ其種類ヲ臧クシ「シヤモ」ノ如キ大鶏ヲ撰ン  
 テ之ヲ蕃育セハ年月ヲ追テ滿國ノ鶏盡ク肥大ニ歸シ

其利益前日一ト倍ヒシ是獨リ鶏ノミナラス牛羊等ニ  
 至テモ尤モ此見立肝要ナリ箇様ノ事コソ誠ニ經濟家  
 ノ意ヲ用ユベキ事ニテ理財ノ端緒之ニ外ナラス細事  
 ニ非ラザルナリ

○近日里俗ノ歌ニ半髮頭ヲタ、イテミレハ因循姑息  
 ノ音ガスル惣髮頭ヲタ、イテミレハ王政復古ノ音ガ  
 スルジヤンギリ頭ヲタ、イテミレハ文明開化ノ音ガ  
 スルト因テ當時邦人ノ頭ノカタチヲ數フルニ總テ八  
 ツアリ半髮小鬚ヲルモノ惣髮マゲヲ結フモノ  
 モゲタルジヤンギリナイガツケニテ髮長キモノ冠下坊

主 又衣服ノ數 裝束 假衣 直垂 鎧直垂 白丁  
 上下 軍服 非常服 西洋服 羽織袴 平服 被布  
 雨羽織 醫者ノ十得 袈裟衣 腹カケ股刎 トンビ  
 フラニケツトヲ着ル者 又ハキモノ、數 木履 下  
 駄 雪駄 草履 麻裏 草鞋 沓 西洋沓 藁沓  
 右等ノ外ニモヨク考索セバマタ數種アルベシ  
 ○近日官制御改正政廳御造立有之ヨシ  
 ○山口藩士卒ヲ合併スルノ告諭書略ニ云國家富強ノ  
 術他ナシ天下ニ曠土浮民ナク天分ノオカヲ伸長シ  
 其力ニ食スルニアリ抑日本全國ノ歲入實數九千三百

萬石ニシテ府縣ノ所管二百萬石ニ過ズ其千餘萬石ハ  
 各藩ノ管タリ而テ各藩百萬有餘ノ士其七百萬石ヲ世  
 襲シ坐食スル者半ニ過グ癸丑外國ノ事起シヨリ殆ニ  
 十年天下未タ兵制ノ實備ヲ見ズ因テ 朝廷別ニ四民  
 ニ募リ節制ノ兵ヲ編セントス然ルニ之ヲ養フノ資何  
 レニ求メヤ 朝廷天下ノ富ヲ興シ天下ノ用ヲ養セント  
 欲ス而テ諸藩皆世祿ナリ 朝廷天下ノ兵ヲ強セント  
 欲ス而テ諸藩ノ士名ハ全州保護ノ常備兵ニシテ其實  
 ナシ故ニ士ノ外ニ兵ヲ募レバ其用費ハ又民稅ニ關リ  
 民ハ益勞シ士ハ益逸ス何レノ時カ四民勞逸ヲ均シク

シ各其所ヲ安ズルニ至ランヤ内國カヲ扶定メ外萬國  
 ニ對峙スルハ彼ノ無用ヲ廢シテ此有用ニ充ルノ外十  
 カルベシ今般士率合併兵制一般ノ法ヲ設クルハ其力  
 役ヲ盡サシムルニマリ人々天下ノ大勢ヲ推シ今日ノ  
 食祿ハ則世襲不易ノモノニ非ザル所以ヲ領知預メ  
 前途ノ目的ヲ定メ各自己ノ才力ヲ磨勵ムヘシト云々  
 ○五月中東京四番丁ニ住セル織田弘ト云フ者先年召  
 使ヒシ家來何ノ遺恨ヤアリケン夜中竊ニ忍ビ入り弘  
 夫婦及ヒ女子ヲ殺害シ逃去リタリ實ニ可惡ノ賊ナリ  
 府ヨリ弘當時召使ノ家來ヲ捕縛糺問シテ其首惡ヲ搜

索シ既ニ逮捕シタルヨシ其事情ハ未タ詳ナラス

朝鮮砲戰新報

朝鮮ニ向ヒタル米國一隊ノ海軍海霧ニ遮隔テラレ久  
 シク洋中ニ漂漾ヘリ四月六日小火輪船四艘ヲ進メ朝  
 鮮近海ヲ測量セシム先年佛船航海ノ時傳ヘタルイレ  
 ボイシーハ碇泊究竟ノ處タルヲ知リ十一日進テ其地  
 ニ泊ス朝鮮ヨリ下官ノ者三名ヲシテ軍艦ニ來ラシム  
 其時譯官ヲシテ談判セシメ米船ノ來リシハ戰ノ為メ  
 ニ非ス測量ノ為メナリ貴邦ヨリ爭端ヲ開カズンハ我  
 ヨリ敢テ侵サズト云フ朝鮮人欣デ去レリ十四日午刻

アラスカノ船將フレキー二百人ヲ率ヒパロース船ニ  
 乘リモノケシ一船并ニ小蒸氣四艘内一隻ハ十四斤砲  
 ヲ載セ外三隻ハ皆十二斤砲ヲ載ス此六隻ノ船朝鮮ノ  
 カンホウ河ニ汜リ測量ス河流彎曲シ處ノ兩岸ニハ絶  
 壁上砲台ヲ列ス右ナルハ小二左ナルハ大ナリ水勢急  
 激ニシテタヤスク進ムヲ得ズ更ニ馬カヲ増シテ進行  
 ス河身漸狭キ處ニ至リ砲台中ヲ望ムニ白装ノ兵卒充  
 満其數二千有餘人旗章ヲ翻ヘシ氣色揚々タリ是時一  
 隻ノ小蒸氣船螺旋機ヲ損ジ少シク後レタリ五艘ノ船  
 河流彎曲ノ處ニ至リ稍ク大砲台ノ直下ニ進ム時忽チ

岸上ノ砲台ヨリ蹄砲二門ヲ放ツ一時四面ノ砲台ヨ  
 リ大約七十門ノ砲ヲ連放ス其色震雷モ比スル一能ハ  
 ズ彈ノ尤大ナルハ二十斤ノ長砲ナリ又船中ニ向テ小  
 彈ヲ放ツ雨ノ集ルガ如シ米船忽傳令シテ即時ニ對  
 砲セシムモノケシ一船ハ暗礁ニ觸レ船腹ヲ損ジタレ  
 氏敢テ顧慮セズ大ニ發砲攻撃セシニ各處ノ砲壁一時  
 ニ崩壞シ朝鮮人狼狽失措或ハ旗ヲ持チ或ハ劍ヲ提テ  
 鳥ノ如ク逃散セリ甲必丹館フレキー令ヲ守テ上陸セ  
 ズ河ヲ汜テ碇泊セリ朝鮮人再ビ砲臺ニ集リ小蒸氣ノ  
 後レ來ルヲ狙撃ス小蒸氣亦發砲シテ遂ニ諸船ニ追付

ケリ砲名ヨリ一時連發ノ勢極テ猛烈カリシカモ七十  
 門ノ砲毎砲唯一二彈ヲ發スルノミニテ且古風ノ砲田  
 深ノ人其照準モ亦甚疎ナリ敵ヨリ發スル彈數約二百  
 五十乃至三百ニ至ル米船中敵ノ彈八箇ヲ受ケ手負死  
 人僅ニ二人砲發ノ數九百五十發也測量既了リテ船  
 ヲカヘシ砲臺ノ下ヲ過キ二三彈激發セシニ朝鮮人後  
 口ノ林中ニ退キタリ諸船落潮ニ乘シ河口ヲ出テホイ  
 シ一島ニ歸ル水師提督船中ノ無難ヲ祝シ上海ヨリ引  
 船到着次第不日船隊ヲ進メ再ビ戰ハントス乗船上陸  
 ノ兵九八百人前ノ六隻ノ船ハ此兵ノ上陸ヲ助ケ砲台

ヲ撃ニ備ヘリ昨日死人ヲ本島ニ葬レリ今朝朝鮮人又  
 來テ談判ス未タ其故ヲ知ラス朝鮮素ヨリ鎖國ヲ唱ヘ  
 當今ノ風俗恰モ數百年前ノ如シ今現ニ西洋ノ戰陣熟  
 シタルヲ見テ希クハ自カラ其時勢ニ後レタルヲ曉リ  
 頑愚ノ眼ヲ開キ各國ト和親ヲ結バン事是尤欲スル所  
 ナリ云々

合衆國海軍大將ローシルスハ朝鮮人ヨリ遺リタ  
 ル書信ノ寫

千八百六十八年間其國人ヲエビル當地へ來リテ通信  
 シ直サテ立去タリ此度ハ如何シテ同様ナラザルヤ



千八百六十五年間佛蘭西人ナルヨシ當地へ来レリ事  
ノ顛末ニ依リ同様ノ時宜ニ至ルベシ此一節ノヨリテ  
ハ佛人同様打ハラ意カ 當國ハ自分開化シテ四千年ノ和  
久ヲ續キ人民叢山ノ如ク晏然タレバ他ヲ望ム丁曾テ  
無シ 當國ヨリシテ他國ヲ侵擾セシ丁十キニ何故他  
邦ハ我國ヲ騷スヤ 我國ハ東隅其國ハ西邊ナルニ何  
等ノ企テツテ如此數千里ノ海上ヲ来航スルヤ 先年  
破損セシ船ノ一條ヲ吟味スル為ニ来ルヤ此一件ハ其  
時乘組居タリシ者海賊ニテ死罪ノ刑ニ處セラレタリ  
汝我土地ヲ墾望スル丁モ能ハサル丁ナリ汝我國ト交

リヲ通ビント欲スルトモ能ハザルベシ

○或料理茶屋ニ兩三名ノ客藝者ヲ呼ビ遊ビ居シガ一  
人ノ曰ク近日官ヨリ藝者ノ税ヲ召上ラレ路普請ノ料  
ニ用ヒラル、ヨレノ風説アリ路普請ナラバ馬車ヤ人  
力車コソ税ヲトルベキニ其故イカニト云ケレバ一人  
微笑シテ云フ近来ハ藝者ガヨクコロビマスカラサト  
満坐大ニ笑ヲ發セリ

○五月八日伊藤大藏少輔米利堅ヨリ歸國セリ  
○五月十五日招魂社祭ニ邦人外國人四名ト競馬セシ  
ニ遂ニ勝ヲ得タリ此人ハ雉子橋門外牛馬商社ノ錢沓

師十ルヨシ又四戸三平曲馬ヲ乘リ鞍上直立碁盤乘リ  
等寂衆目ヲ驚セリ翌十六日角瓶興行セリ

勝兩國 勝境川 又好ニ依テ 勝綾瀨川 勝小柳  
大纏 象鼻 勝朝日嶽 勝小柳

○五月十八日支那エ、正使伊達大藏卿副使柳原外務

大丞其他津田真道長茨郎永寧等横濱ヲ出帆セリ

○細川熊本藩知事職ヲ辭シ士族ニ歸センコトヲ請ヘリ  
上書後彌ニ記スベシ

新聞雜誌第二號終

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス  
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハル處多シ願クハ同好人  
何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ヒ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉  
ハ次第ニ刊行發兌スヘシ又新發明ノ巧器及書籍品物一切賣買ノ弘  
ノ等望ニヨツテ出板スヘシ但寄玉フ書付ニハ其住處姓名ヲ必ス載セ玉フ可  
シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

望ニヨツテ出板スル事件

- 一田地山林家屋舟車等ノ賣買賃借
- 一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一諸船ノ湊出帆積荷ノ物件等
- 一店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一觀セモノ集會等ノ引札
- 一金銀其外ノ貸借等
- 一失物尋物等
- 一職人雇入奉公人望等
- 右等何レモ一行廿三字價三匁宛ニテ引受出板イタシ候

新聞雜誌定價

一 雜誌定價銀二匁 當分一ヶ月三雜誌出板

一 一ヶ月分引受候向ハ定價ヨリ一割引

一 六ヶ月分ハ二割引

右定ノ通約定ノ上本局又ハ賣弘蒙ヨリ相渡申候遠方取次賣弘方望ミ人ハ本局へ引合ノ上御相談可申候

東京小川町今川小路

日新堂

同兩國横山町三丁目

和泉屋壘右工門

賣弘所

同日本橋釘店

和泉屋 壯造

同